

「未来への架け橋」

沖縄県立伊良部高等学校 3年生 ^{とくやま}渡久山 ^{れな}伶奈

「島民の長年の夢が叶った。」

私は、伊良部大橋が開通して以来、この言葉をよく耳にする。私が生まれるずっと前から島民が願っていたこの大橋開通は、私を含めたくさんの人が喜んでのことだろう。一方で、四十年間平良と伊良部島を行き来し、島民の生活を支え続けてきた船が運航しなくなったのは、とても寂しいことである。

伊良部大橋が開通してからの変化といえばこの伊良部島へ訪れる観光客が増えたことである。交通手段が便利になったことにより、以前よりもレンタカーや観光バスを見かけることが多くなった。

また、島の観光も少しずつ変化してきた。交通量が多い橋の近くに看板を立ててお店をアピールしたり、この島でしか買えない食品や商品を作ったりとたくさんの工夫が見られるようになった。しかし、こうした観光の中にも疑問に思うところがある。それは「海」を利用した観光のあり方だ。

「伊良部島といえば？」と聞けば、島民の多くが「海」と答えるだろう。そして観光客も「海」を目的としてこの島を訪れる人がほとんどだと思ふ。その海を利用して、最近では海岸沿いにリゾートホテルや飲食店などが建てられるようになった。島を活性化させるために眺めの良い海をアピールするのは最適な方法だろう。この先もこれらの施設は増えていくと考えられる。しかし、土地に限りがあるこの島で新たな建物を建てることは、海の埋め立てや、島の自然を破壊する事につながる恐れがある。そうなってしまうと、島の誇りである海は汚れてしまうし、自然もなくなってしまうため、島の観光は衰退していくと考えられる。

では、島の自然を守りつつ、観光を活性化させていくにはどうすればよいだろうか。

私は、まずこの島のイメージを変えていく必要があると思う。「海」というイメージだけでは、この島を訪れてもドライブで海を見に来たり、ダイビングをしたりするだけで島全体の活性化にはつながりにくい。そこで、島の生活を味わってもらい、島の自然のすばらしさ、味わい深い島の特産物を知ってもらおう。そうすれば、観光客は島民と深く関われるので、方言やこの島独特のなまりに触れ、親しみやすい島民の温かさを知ることができる。ゆったりとした時間の中で、島民と同じ目線で島民の生活を疑似体験してもらえば、この島をもっと好きになってもらえるのではないだろうか。観光客が島で遊んで帰るだけ

では、島らしさは味わえない。この島の魅力は「海」だけではなく、島の生活、島の人の温かさにある。私はこの「島らしさ」を島の開発、発展とともに失うのが怖い。当たり前過ぎて気づかないこのような島の魅力をもっと前面に出していけば、島の自然を守りつつ、観光を活性化することができると思う。

また、この島のもう一つの大きな魅力は癒しである。雄大な自然やきれいな海を眺めていると、私たちの悩みなどちっぽけなものに思えてくる。このように、この島の自然はストレスや怒り、悩みといった私たちの負の感情を包み込んでくれ、癒してくれる。

ささいな人間関係のこじれから争いが起こり、殺人等の事件が後を絶たない今日、ストレスや悩みを解消し、癒してくれるこの島は人々を幸せにしてくれる島といえるだろう。現代はストレス社会と言われ、多くの人々が大小様々なストレスを抱えて生活している。そんなストレスをこの島で解消してくれれば誰もが幸せな気持ちで生活できるのではないだろうか。そうなれば、争いのない平和な世界を作ることができるはずだ。

観光客に島の魅力である島らしさを感じてもらいながら、幸せな気持ちで帰ってもらおう。それがこの伊良部島が今後目指していく観光の新しい形なのではないだろうか。私も島民の一人としてこのような観光を進めていけるよう、当事者意識をもって関わっていきたい。